

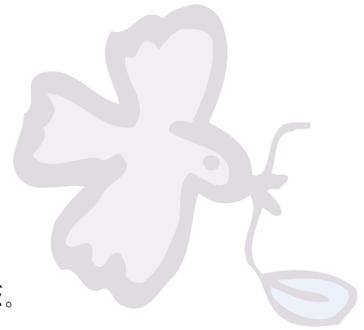
WebアクセシビリティJIS

開発と制作に関する個別要件 — 色および形、文字 —

Webアクセシビリティにおいて色や形は特別な意味を持つ。

国内では視覚障害者が約30万人、色覚障害者が男性で約318万人

そして高齢者が2,400万人と、視覚や色覚に課題を持つ方々が非常に多いからだ。



関根千佳 = 文

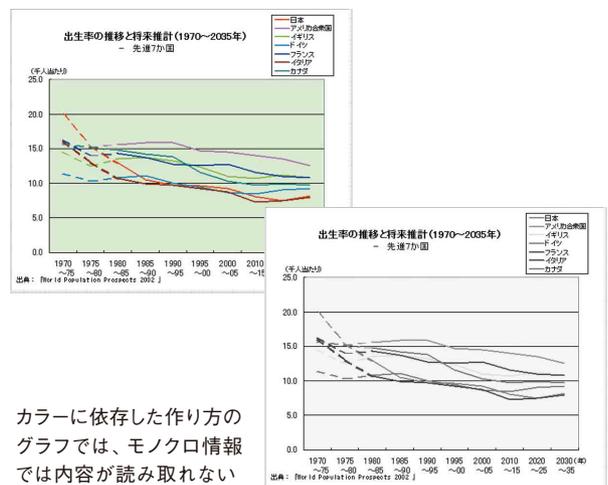
ユーディット 代表取締役
情報のユニバーサルデザイン研究所

ある調査では、最も目が疲れているのは30代という結果が出ている。長時間パソコンの前で仕事をする機会が増えているからであろう。ちなみに、目の水晶体が白く濁る白内障は、50歳以上で65%、65歳以上で95%以上が要治療であるという調査結果もある。Webでも、見やすい色や形を表現する必要があるのだ。この色や形について、JISでは次のように規定されている。

5.5 色および形

a Webコンテンツの内容を理解・操作するのに必要な情報は、色だけに依存して提供してはならない。

画面の中で、色だけで情報を提供しているような場合が多いのは統計データなどが挙げられる。円グラフなどでは凡例によって内容が理解しやすくなっているとよいのだが、これも表示の仕方によっては見えにくくなる。しかし、この問題のチェックは意外と簡単に行える。まず、手持ちのモノクロプリンターで印刷してみるとよい。例えば、総務省 統計局のWebサイトで、子供向けデータ・サイト「なるほどデータ for きっず (<http://www.stat.go.jp/kids/datastore/>)」の「出生率の推移(国際比較)」を印刷してみると、線種の違いが分からなくなってしまった(上図)。こういった場合はグラフが煩雑にならない程度に、線種を変えたりマークを付けたりしてほしい。このように、色だけに頼らない工夫が必要になる。



カラーに依存した作り方のグラフでは、モノクロ情報では内容が読み取れない

b Webコンテンツの内容を理解・操作するのに必要な情報は、形または位置だけに依存して提供してはならない。

この例としては、画面上で○、×、△で選ばせるようなアンケートがよく挙げられる。前号で説明したALT属性の付け方でかなり改善することができる。

c 画像などの背景色と前景色とは、十分なコントラストを取り、識別しやすい配色にすることが望ましい。

背景色と前景色との間のコントラストが十分でないと識別しにくい人も出てくる。国内に21万人いると言われる弱視者の場合、文字を拡大したうえで黒地に白でくっきりとしたゴシック体にするなど、ソフトウェアの機能を利用して画面を変化させて読む場合も多い。また、日本人男性



視覚障害者向けの機能。別の配色を使ってスクリーン・コントラストを強調し画面を見やすくする

なお、JIS規格では、アイコンの例を次のように例示してある。

- 1) コントラストに差を付けた例 コントラストの差が少ない例


- 2) 文字の縁取りを付ける例 付けない例


- 3) 色覚障害者に識別しやすい色の組み合わせ 判別しにくい例



文字に関しても関連があるのでここで説明しておこう。

5.6 文字

a 文字のサイズおよびフォントは、必要に応じ利用者が変更できるようにしてはならない。

高齢者または弱視者にとっては、文字のサイズやフォントが小さくて読みにくいことがある。Webブラウザの文字サイズ変更機能で拡大しようとしても、サイズやフォントが固定されていて、全く拡大できないことがある。サイズの固定は避け、スタイルシートで指定する場合は、Webブラウザで変更できる“em”“%”を使うことをお勧めする。

b フォントを指定するとき、サイズおよび書体を考慮し読みやすいフォントを指定することが望ましい。

ゴシック体の方が見やすいという人も多いが、文字や歴史のWebサイトは明朝体の方が気分が出るというシニアも多くいる。たまに全く読めないフォントさえ見かけるが、公共のWebサイトでの使用は控えたい。基本的に書体の指定はせず、見る人の環境に任せるべきだろう。

c フォントの色には、背景色などを考慮し見やすい色を指定することが望ましい。

これも前項で説明した内容に似通っている。緑と赤、黄色に白などの組み合わせは避けるようにしたい。



* Windows XPでは[スタート]—[コントロールパネル]—[ユーザー補助のオプション]から、[画面]タブの[ハイコントラストを使う]にチェックを入れる。

の5%、同女性の1%いると言われる約318万人の色覚障害者にとっては、赤の上にかかれた緑の文字やその逆の文字は読めないと思った方がよい。また高齢者の場合は、白や灰色の上にかかれた黄色の文字などはとても読みにくい。前景の文字情報などが読みにくい場合は、パソコンのOSに搭載しているハイコントラスト機能などを用いて、画面を反転表示させることもできる(上図)*。しかし残念ながら、この方法はあまり知られていない。

また、写真や画像の上に文字を配置する場合は、込み入った絵や柄の上に文字を置くことは避けたい。字の視認性が落ちてしまい、必要な情報が探しにくくなってしまう。

福岡県が提供している「ふくおかデータウェブ(<http://www.toukei.pref.fukuoka.jp/>)」は、内容も豊富で格好が良いのだが、アクセシビリティについてはもう少し配慮がほしい(下図)。すべてのアイコン・ボタンに柄が入っているので選択が難しく、文字のコントラストも低い。白地に黄色の文字のアイコンもある。このサイトには、現在のところALT属性も全く使われておらず、アクセシビリティへの配慮はこれからだと思われる。



視覚に障害がなければロールオーバー画像は視認性がよいが、弱視者への配慮が足りない